

荒川将来像計画 全体構想書（改定版）

～健康・Well-beingな川づくりを目指して～

「荒川」と荒川に関わる「まち」と「ひと」が共に健康・Well-Being（ウェルビーイング）な状態へ



将来像計画とは

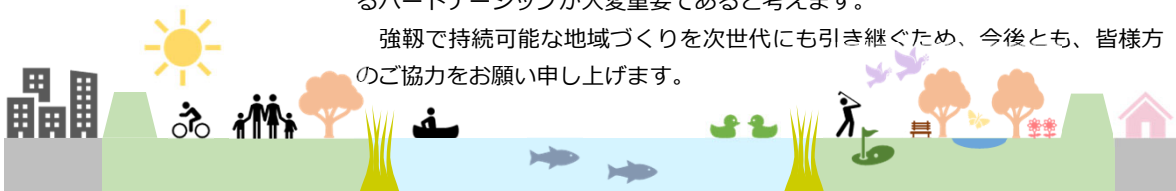
魅力的な川づくりのあるべき姿と 実現するための取組をとりまとめたもの

荒川下流部は、洪水の脅威からまちを守るための人工放水路として整備されてきました。令和 6(2024)年で通水100周年を迎えます。

その後時代の流れとともに、荒川の多様な機能と付加価値を高めることが求められ、流域に暮らす沿川市民や行政が協働し、治水・環境・利用の相互関係を大切にバランスの保たれた川づくりが進められています。

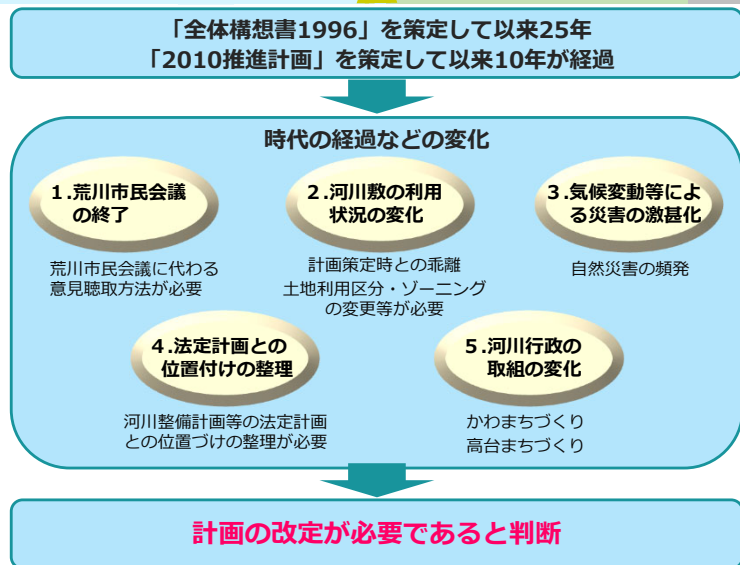
さらに、次の100年を見据えて、荒川の望ましい姿を少しずつでも実現していくために、まさにこれから行動していかなければなりません。そのためには、荒川に関わるあらゆるひとが川への関心を持ち、川づくりへ積極的に参加できるパートナーシップが大変重要であると考えます。

強靱で持続可能な地域づくりを次世代にも引き継ぐため、今後とも、皆様方のご協力をお願い申し上げます。



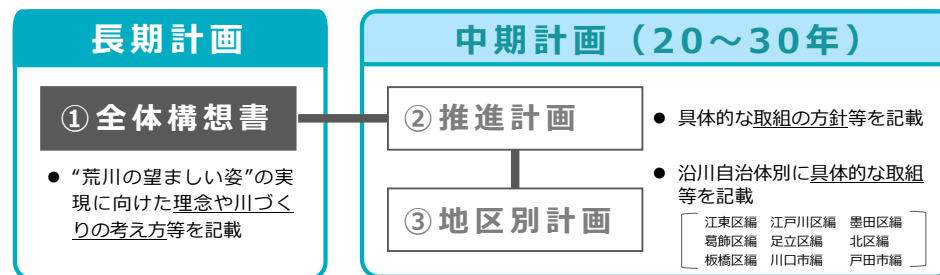
将来像計画改定の経緯

「荒川将来像計画全体構想書1996」の策定から約25年、「荒川将来像計画2010推進計画」及び「荒川将来像計画2010地区別計画」の策定から約10年が経ち「荒川将来像計画2010推進計画」の目標年次を経過したため、社会情勢の変化やこれまでの取組状況等を考慮し、「荒川将来像計画全体構想書1996」を改定する運びとなりました。



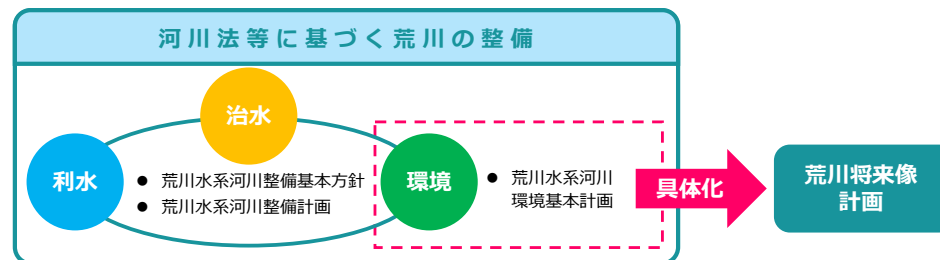
将来像計画の構成

将来像計画は ①全体構想書、②推進計画、③地区別計画から構成されています。



将来像計画の位置づけ

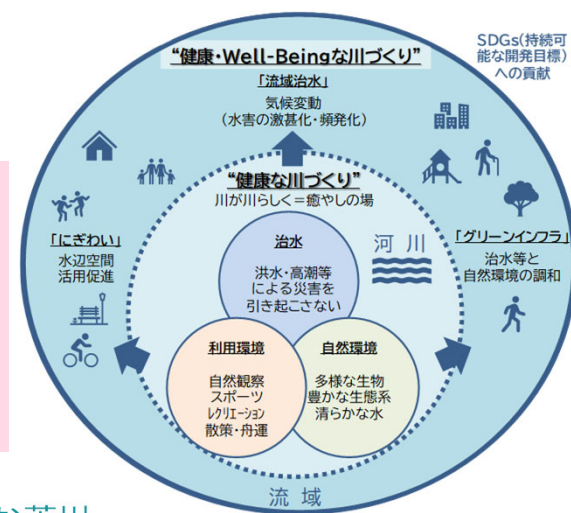
今後、荒川下流の沿川自治体と国土交通省荒川下流河川事務所では将来像計画の主旨を踏まえ、荒川下流の整備や維持管理を実施していきます。



課 題	内 容
1 荒川市民会議の終了	荒川市民会議が平成26年度以降終了している
2 河川敷の利用状況の変化	計画策定時との乖離が生じており、土地利用区分の変更等が必要である
3 気候変動等による災害の激甚化	気候変動等により激甚化する災害に対して、防災の記載の充実が必要である
4 法定計画との位置付けの整理	河川整備計画等の法定計画との位置付けの整理が必要である
5 河川行政の取組の変化	流域治水や賑わいの観点などの河川行政の取組が変化している

健康・Well-Being な川づくり

- 健康な川とは、流れてくる水が清らかで、川に棲む多様な生物が豊かな生態系を形成すると共に、自然観察や釣り、散策、スポーツ・レクリエーション、舟運等、様々な人間による様々な河川利用活動がバランス良く行われながら、洪水や高潮等による災害を引き起こさない状態を一言で象徴的に言い表したものです。
- 「荒川」と荒川に関わる「まち」と「ひと」が、共に健康・Well-Being（ウェルビーイング）な状態へ変容していくことを目指します。
- 「流域治水」の考え方も取り入れ、あらゆる人が川に親しみ、川への理解を醸成し、川を守り育てるという姿勢で取り組みます。



多くの生き物を育む荒川

大正13(1924)年の荒川放水路の通水以来100年に及ぶ時間の中で、荒川は旺盛な自然の営みを受け止めることにより、多様な生物の生息の場としての役割を果たしてきました。この自然の営みを尊重し、荒川ならではの自然環境を保全・創出・再生します。

これは、極度に都市化した沿川地域のなかにあっては、自然豊かな貴重な空間となるものです。また、沿川住民の方々が、自然と触れ合い、自然を学ぶ場ともなるものです。



安心して快適な暮らしができる安全な荒川

荒川は、沿川の海拔ゼロメートル地帯に数百万人の人口を抱えており、洪水や高潮、さらには地震が発生した時の被害は計り知れないものがあります。

そこで、このような災害に対しても安心して快適な暮らしが確保できるよう、安全な川として整備します。



あらゆる人が川と触れ合い、あらゆる人がくつろげる荒川

多くの自然を育み、とうとうと流れる荒川は、地域社会の風景の大切な一部として親しまれてきました。

地域の原風景としての荒川を大切にしながら、子供からお年寄りまで、荒川に関わるあらゆる人、まちとのパートナーシップづくりを進め、連携して河川管理を進めていくことで、あらゆる人が安心して気軽に自然と触れ合い、水辺に親しみ、くつろげる快適な空間を創出します。



河川空間の節度ある利用ができる荒川

荒川の広大な空間は、自然観察や釣り、散策、スポーツ・レクリエーション、舟運など様々な人間による様々な河川利用活動を受けとめる場でもあります。

荒川の自然環境を尊重しながら快適に利用できる空間を創出し、節度ある利用を図ります。



きれいで豊かな水が流れる荒川

連続した広大な水面は、存在そのものが多様な価値を秘めており、その流れが清らかで豊かであればあるほど、荒川の価値は向上します。清く美しく、とうとうと流れる荒川は、誰もが共通して期待するものであり、今後もきれいで豊かな荒川になるように努めます。



1 自然豊かな川を創る

- ◆ 荒川らしい自然の拠点を保全、創出・再生
- ◆ ビオトープと生態系ネットワークの整備
- ◆ 街の自然との連携
- ◆ 水質改善

2 適正な利用と快適に楽しめる川を創る

- ◆ 将来的なゾーニングの設定及び適正な利用の促進
- ◆ 自然と共存した利用施設整備の推進
- ◆ 荒川に関するあらゆる人が快適に利用するための施設整備

3 安全な川を創る

- ◆ 着実な治水対策
- ◆ 超過洪水対策
- ◆ 地震に強い川